



競輪補助事業完了のお知らせ

この度、公益財団法人 JKA 様から 2025 年度福祉機器の整備補助事業の交付を受けて、下記の事業を完了いたしました。

本事業の実施により、経年劣化した特殊浴槽一式を整備することができ、ご利用者様に対して安心安全な利用を提供するとともに、職員の介護負担軽減の維持にもつながりました。

ここに事業完了のご報告を申し上げますと共に、公益財団法人 JKA 様をはじめ、ご協力を賜りました関係者の皆様に謹んで感謝の意を表します。

記

事業名	2025年度 福祉機器の整備 補助事業
事業の内容	特殊浴槽一式
整備機器	酒井医療株式会社 リクシースタンダード浴槽 LIX-120M 1台 片持ち型ストレッチャー LWT-100 1台
事業費総額	5,759,500円
整備補助金	3,825,000円
実施場所	岩手県宮古市崎嶽ヶ崎第4地割1番地43
施設名称	地域密着型特別養護老人ホームサンホームみやこ絆
完了年月日	令和7年12月29日



<自己評価1回目> ※黄色のセルをすべて記入してください。

項番	1	総事業 項目数	1
----	---	------------	---

整理番号	2025M-	078	補助事業者名	社会福祉法人 若竹会	事業項目名	社会福祉事業
------	--------	-----	--------	------------	-------	--------

別紙 JKA補助事業 2025年度 事前計画/自己評価書(4/5)

5. 補助事業の自己評価

作成日	2026	年	3	月	15	日	作成者	勝山 忠親
-----	------	---	---	---	----	---	-----	-------

(a) 個別項目評価

●個別の評価項目について、事前計画/自己評価書(3/5①②) 4. 事前計画 に対する達成状況等を把握し、分析・評価してください。					採点
(1) 受益者 (ニーズ)	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)				
(2) 事業内容	2025年10月運用開始とするため導入予定を2025年9月とした。1日当たりの利用人数を6人とし、週一回休みの日を設け、毎月26日稼働とし、156人/月とした。2回/週以上入浴することができ、身体の清潔保持、健康保持(褥瘡予防等)及び精神的な満足度を得られることが期待される。また、職員の負担軽減や仕事の効率化を図る。				
事業の新規性または継続の必要性	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)				採点
事業の発展性	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)				採点
実施計画・体制	計画から見積合わせ、選定まで予定とおり進み、9月に新設備を導入することができた。導入後、メーカーからの操作手順等の引継ぎもスムーズに行われ、その後、無事に運用開始となっている。				4
(3) 達成目標	事業の実施結果	[達成値] 2025年9月導入	[達成状況] 100%	[具体的内容] 2025年10月より利用を開始するため、2025年9月に導入することができた。	5
	事業の成果・波及	[達成値] 稼働時間1人当たり40分 利用件数6人/日 稼働日数26日/月	[達成状況] 100%	[具体的内容] 当初の予定通り、利用者1日当たりの入浴時間(衣類の着脱を含む)40分とし、1日当たりの利用人数を6人入浴する事ができた。	5
(4) 情報発信	事業の実施結果	[達成値] 当法人ホームページ及びFacebookほか広報誌にて情報を発信する。	[達成状況] 100%	[具体的内容] 当法人のホームページ及びFacebookの他、施設広報誌にて情報発信した。 【効果】 現在の当法人のホームページやFacebookにて情報を随時発信している。また、広報誌にも掲載し、関係機関や公共施設にも配布することから、デジタルとアナログでの両面で老若男女問わず幅広い年齢層に情報発信できた。	4
	競争・オトレス補助金による事業であること	[達成値] 当法人のホームページ及びFacebookのほか施設広報誌にて情報を発信する。	[達成状況] 100%	[具体的内容] 当法人のホームページ及びFacebookの他、施設広報誌にて情報発信した。 【効果】 現在の当法人のホームページやFacebookにて情報を随時発信している。また、広報誌にも掲載し、関係機関や公共施設にも配布することから、デジタルとアナログでの両面で老若男女問わず幅広い年齢層に情報発信できた。	4
(5) 自己評価の体制	責任者:施設長 仲田多加志 責任者及び総務係長は、広報、入札関連、契約を行う。その他メンバーは浴槽の管理保全、ご利用者のニーズの把握とサービス提供を行う。 メンバー:高木美幸(介護課長)/女鹿智恵子(ユニットリーダー/佐藤樹(ユニットリーダー)/館崎莉子(ユニットリーダー)/久坂義臣(生活相談員)/駒井貴之(介護支援専門員)				4

(b) 総合評価

総合 評価点	5
-----------	---

●(a) 個別項目の評価から実施状況等を振り返り、事業全体を評価してください。	
(1) 事前計画(2/5)記載の「補助事業の直接的な目的」を踏まえた、事業全体についての意見・所感	導入前は10年以上使用した特浴で入浴していたが、リフトの不具合(途中で止まる)等があり、ご利用者、職員共に心理的不安要素があった。また、老朽化に伴い、お湯張り時間も約1時間かかっていたが、導入後は操作時の不安要素が取り除かれ、お湯張りの時間も20分程度に縮小され、大幅な時間削減ができた。ご利用者についてはマイクロバブル機能の効果で、褥瘡の発生は無く、皮膚トラブルの減少に繋がっている。また、導入前までであったご利用者の蜂窩織炎の発生も導入後は0件で経過している。 情報発信については、当法人のホームページ及びFacebookで情報発信している。また、運営推進会議の中で、委員の方々に特浴を実際に見てもらうことで、導入の効果等を伝える事が出来た。委員の方々からは「私も入ってみたい」などの声もあがり、好評であった。
(2) 優れている点・課題、改善すべき点	優れている点はやはり、ご利用者の皮膚トラブルの減少。また、湯張り時間が最大約40分/回 短縮できたことで、その時間をご利用者のレクや余暇支援等向ける事ができた。 今後の課題・改善点については、この特浴を長期に渡り、安全に使う事を考えた際に、日々のメンテナンスや保全の仕組みを確立させることが課題となる。
(3) その他、アピールしたい点、是非知ってもらいたい点	マイクロバブル搭載の特浴に入浴する事で、皮膚トラブル減少に繋がっている。その他、蜂窩織炎等に罹患する回数も導入後からは0件となっていることから、マイクロバブルによる効果は絶大だと言える。また、新設備導入後は故障も無く、ご利用者、職員の心理的不安要素が大幅に減少した。

【福祉機器・医療機器】

整理番号	2025M-	078	補助事業者名	社会福祉法人 若竹会	事業項目名	社会福祉事業
------	--------	-----	--------	------------	-------	--------

別紙 JKA補助事業 2025年度 事前計画／自己評価書(5/5)

(c) 事業の促進・阻害要因の自己分析

- 事業の目標達成を促進した、あるいは阻害した要因について、「要因分類」(1)～(15)の「促進」または「阻害」欄に「*」を記し、要因の内容を a 欄に、阻害要因への対応あるいは今後この分析結果をどう活かすかを b 欄に、それぞれの要因分類の番号(1)～(15)を付して、具体的にご記入ください。
- 促進または阻害要因が無い場合には、(16) の欄に「*」を記してください。

事業の促進・阻害要因の自己分析					
	促進	阻害	要因分類	a. 促進または阻害要因の具体的な内容	b. 対応、今後この分析結果をどう活かすか。
内部 要因			(1) 経費		
			(2) 実施体制 (人員、関係機関 の協力等の確保)		
			(3) 資材調達 (事業実施に必要な 物資等の確保)		
			(4) 実施期間 (事業終了までに 要する期間)		
			(5) 事業運営のノウ ハウ(進捗管理、 資金管理等)		
			(6) 設計仕様の変 更(主に建築)		
			(7) その他		
外部 要因			(8) 受益者の 規模・ニーズ		
			(9) 実施体制以外 の団体等の協 力・支援		
			(10) 関連法制度 の変更		
			(11) 利害関係者 (受益者以外)の 要望への対応		
			(12) 災害の発生 (地震、洪水等)		
			(13) 同様の技術 開発		
			(14) 競合するサー ビス・事業の出現		
			(15) その他		
	*		(16) 特になし		